

令和2年8月14日

学識経験者 廣島 義和

はじめに

阿波市第一次教育振興計画（後期計画）では、教育ビジョンの基本理念を「未来をつくる力」「たくましくいきる力」「郷土を愛する心」とし、基本目標を「人が輝く まちが輝く 未来が輝く（阿波の人づくりプラン）」と定めている。

さらに、教育目標を7項目掲げ、「令和元年度 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価に関する報告書」として、各項目についての評価・結果を取りまとめている。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定では、阿波市教育委員会の事務に関する点検・評価については、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況を点検及び評価を行い、その結果報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされている。

その際、教育に関する学識経験者の知見活用を図るとなっており、一市民としての立場から所見を述べたい。

1 点検・評価について

報告書は、推進施策27（実施事業73）に対する事業評価「以下事業評価」と教育振興後期計画における重要施策の業績評価指標一覧「以下評価指標一覧」から成る。推進施策毎にPDCAに基づく評価がなされている。また、そのうち後期計画の重要施策事業16についてKPI（重要業績評価指数）並びに目標値が設定されており、該当年度の実績値が記載されている。KPIが設定されていない57事業についても可能な限り目標値の設定が望ましい。

事業評価73事業のうちA評価は8事業（約11%）、B評価65事業（約89%）である。また事業の方向性は、Aについてはすべて「現状のまま継続」。Bについては「さらに重点化」（5）、「見直しのうえ継続」（2）、「現状のまま継続」（61）である。

評価指標一覧に関して、KPI・目標値（46）中、12が目標達成されている（約26%）。

令和元年度実績値未記入が12存在しており達成状況が不明である。

以上からわかることは、A評価8事業については、学校教育課の「教育内容の充実」（4）、給食センターの「学校給食の充実」（1）、社会教育課「生涯学習プログラムの整備・提供」（2）「家庭教育の向上」（1）、「青少年の体験・交流活動の充実」（1）であり、学校教育、給食センター、社会教育ともに成果が上がっている。

次に、B評価のうち、「さらに重点化する」（5）は、すべて学校教育課で、「子育て支援の充実」「豊かな学力の充実」「職員の資質向上」「障害のある子どもの環境づくり」「地域全体の連携強化」となっており、どの事業も教育行政の重要な課題であり、さらに重点化することにより、子どもたちの安心安全な豊かな教育環境の整備と教育実践が大いに期待される。

次に、B評価「見直しのうえ継続」（2）は、学校教育課の「国際理解の教育」「英会話教室の開催」であり、4人のALTを全中学校に、5人の日本人英語指導講師を全小学校に配置するなど、英語学習指導に熱心に取り組んでおり、社会教育においても多くの参加者が英会話教室等で英語に触れ国際感覚を養っている。今後とも更なる見直しをするとともに一層の成果を期待する。

次に、ほとんどがB評価・「現状のまま継続」である。概ね成果が上がっているものと思われる。評価の方法によれば、Bは、「優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている」となっているが、何が優れた取組なのかが不明である。実績状況に言及されてい

と思われるが、具体的表記箇所（欄）を設け記述等があれば更にわかり易い。しかしながら、約 89%が B 評価であることは各部署における取組に一定の成果が上がっていると評価できる。

また、事業評価と評価指標一覧について、73 事業評価の事業名並びに具体施策と評価指標一覧の KPI との関連についての説明等が必要ではないか。例えば、事業実施達成度をより実効あるものとするため、具体的に KPI・目標値を設定し見える化を図った等。

2 施策の進捗状況について

(1) 学校教育「食育を基盤にした、地・徳・体の調和のとれた生き抜く力の育成」

1-1「生きる力の育成を重視した教育内容の充実（12 事業）」では、A 評価が 4 事業あり、幼児教育において、保育所・小学校との連携、人とかかわる力の育成、遊びをとおした思考力の基礎の育成、ALT による英語活動など、豊かな感性を育む実践ができています。また、小中学校では、学力向上推進講師、英語指導講師を配置し、TT 指導、放課後学習、さらに、ICT 機器の活用による「楽しくわかる授業」の実践ができています。

豊かな心の育成として、命のリレープロジェクト、阿波市人権教育研究大会の開催、伝統文化継承として、地元連招聘による阿波踊り、市内の名所旧跡めぐりなど、郷土の文化財学習ができています。

健やかな体の育成として、体力向上指導員派遣事業や阿波市スポーツ推進員による体力向上、中学校部活動での外部コーチ配置、薬物乱用指導教室の開催など、健康や安全への配慮ができています。ICT 研究員の派遣、阿波市教育情報セキュリティーポリシー研修会など ICT 活用に関する教職員の資質向上に取り組んでいます。

環境教育の充実についても、「新・学校版環境 ISO」を全小・中学校が取得し 6 校が継続認定を取得した。ゴミゼロ運動やエネルギーについての学習に取り組み成果が上がっている。

食育の推進では、「Awa 産 Awa 消 My メニュー」コンクール開催による給食献立採用など食への興味を喚起した。阿波市キッズソムリエ認定者数 340 名の存在もすばらしい。

読書活動の充実は、朝読、ボランティアによる読み聞かせの実施、さらに家庭読書習慣のひろがりへとつなげている。

手厚い就学援助の実施や児童を認め、褒め励ます教育活動、職場体験の実施等キャリアプランニング能力の育成を図っている。

1-2「家庭や地域との連携・協働（2 事業）」では、すべて B 評価である。

学校・家庭・地域との連携した取組として、やねこじき、小・中・高合同音楽祭に参加し、地域の文化芸術の発展に寄与している。戦没者慰霊祭への参列をとおして平和への意義付けができています。学校ボランティア 61 名によるゲストティーチャー招聘等地域の教育力を活かした取組となっている。

1-3「心と体の健康問題への対応（2 事業）」では、すべて B 評価である。

適指指導教室「阿波っ子スクール」での基礎学力の補充、臨床心理士によるカウンセリングの実施、地域ボランティア・大学院生ボランティア活動、不登校問題対策協議会を開催する等対応がなされている。

教職員の指導力とカウンセリング能力の向上では、幼児児童生徒への対応について言及があるが、標題の教職員の指導力向上への取組が記載されていない。今後対応されたい。

1-4「特別支援教育の充実（3 事業）」すべて B 評価であるが、更に重点化して取り

組む方向性が2事業報告されている。

障がいのある子どもの教育環境づくりは、すべての幼・小・中で特別支援教育コーディネーター配置、加配教員の配置等支援体制の充実がなされ、個別の教育支援計画の作成による的確な教育的支援ができています。また、教職員研修も実施されている。増加傾向にある支援を必要とする子どもへの施設整備・人的支援等教育的環境整備をさらにお願したい。

相談支援体制の充実では、入園応援シート、入学応援シートなど乳幼児から学校卒業までの一貫した相談・支援への工夫が見られた。

海外帰国・外国人児童生徒への支援では、「帰国・外国人児童生徒いきいき事業」の活用による日本語教育支援を行っている。

1-5「安心・安全な教育環境づくり（3事業）」すべてB評価である。

地域全体の連携強化では、通学路点検、学校・警察・地域・青少年育成センター等連携による街頭補導、スクールガードリーダーによる巡回指導が実施されている。地域の子は地域で守る、地域全体で子どもの安全確保体制へのさらなる重点化が示されており大いに期待できる。

防災教育の充実は、すべての幼・小・中学校で学校防災計画・学校防災マニュアルによる訓練、地域の避難標識の確認や防災マップづくり、親子防災教室の開催、自主防災組織連合会防災訓練を地域全体で実施している。

安全教育の充実は、警察・県土整備局・市建設課、園・学校、PTAや青少年育成センターによる通学路危険箇所合同点検の実施。また、各学校では、交通安全教室、防犯教室を実施している。

1-6「学校給食の充実（1事業）」A評価となっている。

地産地消の推進では、地産地消率は55.5%（前年43.2%）と上回り、目標値を達成している。米は100%となっている。

1-7「幼・小・中・高等学校の連携強化（1事業）」B評価である。

連携強化の取組として、園・小学校合同運動会、避難訓練、交通安全教室、中学校では、オープンスクールによる小中交流、中高一貫教育として、阿波西高校と市場中・阿波中間で教員の相互交流、学校祭への参加、部活動合同練習等を行っている。

1-8「学校施設の整備（3事業）」すべてB評価である。

施設の長寿命化工事、施設バリアフリー化、教育機器の充実については、計画に基づき順次実施している。普通教室へのエアコン設置（100%）完了、学校でのタブレット・パソコンによる情報化教育の推進としてICTを活用した授業の時間数が目標値を大きく満たしている。

（2）生涯学習「主体性を尊重し、人間性と創造性を発揮する環境づくり」

2-1「生涯学習施策の体系化（2事業）」すべてB評価である。

全市的な推進組織の充実は、講座数、登録者数ともに目標値に迫る状況である。

学習成果を発揮できる環境づくりは、学習成果を発表する場として、阿波市文化祭への参加等が報告されているが、受講者の活用に関し、指導者としての人材育成へとつながるなど期待する。

2-2「生涯学習関連施設の整備充実・機能強化（2事業）」ともにB評価となっている。

図書館機能の充実は、土成図書館・公民館新築工事等計画に基づき実施できた。図書館利用者、蔵書数、貸し出し冊数それぞれ目標値近くの成果を挙げている。図書館指定管理制度による効果的な運営について、各図書館の現地調査をし、モニ

タリングを実施するなど運営状況の把握に努めており、調査結果に基づきより実効ある運営を期待する。

公民館機能の強化は、どの館とも築年数が相当経過しており、改修等の施策が必要であろう。今後震災等に備え、避難場所として指定されている施設の耐震改修等をお願いしたい。

2-3「生涯学習プログラムの整備・提供（4事業）」ではA評価が1事業、B評価が3事業である。

各種講座の開催は、アエルワ、自然観察会、ホテルの観察会、剣山の植物観察会、石・クモ・野鳥の観察会等多岐にわたる講座が開設されている。目標値に迫る状況であり、参加者の固定化対策や若者層の参加等更なる効果的な運営を期待する。

生涯学習情報の提供は、広報阿波、市ケーブルTV、HP、児童対象講座は、学校を通じて行っている。今後とも更に効果的な情報提供を期待する。

市民参画の推進は、受講生アンケートによるニーズ把握を実施している。市民が参画できるしかけについて研究し、市民の手による講座開設等につなげたい。

2-4「関係団体の育成（1事業）」B評価である。スポーツ少年団指導者講習会を開催し、12名が資格取得した。

(3) スポーツ振興「健康で気力あふれる人が育つスポーツ環境づくり」

3-1「スポーツ振興施策の体系化（3事業）」すべてB評価である。

市民の健康・体力づくり推進事業は、「スポーツのまち阿波市」を目指し“市民ひとり1スポーツ”として取り組み、阿波シティマラソンは新型コロナのため中止となったが、これまでランネットによる総合評価も目標値に近づいている。スポーツ推進委員派遣も順調である。

学習体系の定期的な見直しは、市民ひとり1スポーツを目指し、スポーツの効用を様々な観点から考えるなど計画的に推進している。

全市的な推進組織の設置については、総合型地域スポーツクラブ数の目標値達成、会員数も目標値に向かい伸びている。

3-2「スポーツ施設の整備充実・有効利用（1事業）」B評価である。

計画的な施設整備ができています。市外運動部受け入れも目標値6のところ3となっている。

3-3 スポーツ団体・指導者の育成は、社会教育課設置の体力向上指導員の保育所・園等での活用ができています。また、指導者の育成についてもお願いしたい。

3-4「幅広いスポーツ活動の普及促進（3事業）」すべてB評価である。

スポーツ普及事業は、体育協会において、連盟ごとのリーグ戦、大会を開催している。多様な広報媒体を通じてさらなる普及を期待する。

競技力向上支援事業は、徳島駅伝の成績向上に向けた強化練習・合宿に取り組み、全国大会出場の財政的支援もできています。さらなる選手の発掘・選手層強化等一層の成績アップを期待する。

行事の見直し・改善は、阿波シティマラソン出場部門見直しやジュニア駅伝出場部門の拡充等進めている。競技人口減少の中、さらなる選手確保をお願いしたい。

(4) 芸術・文化振興「郷土を愛する心と創造力が育つ、新しい歴史と伝統を生み出す環境づくり」

4-1「芸術・文化団体の育成（2事業）」すべてB評価である。

情報の提供については、広報誌、ケーブルTV等で実施。多様な媒体、設置場所

等鑑み、さらなる情報提供をお願いしたい。

指導者や文化ボランティアの確保は、文化協会加入者を講師とした運営ができて
いる。また、生涯学習講座修了生の指導者への活用等の仕組みづくりも期待したい。

4-2「芸術・文化の鑑賞、発表機会の充実（2事業）」すべてB評価である。

文化行事の拡充は、アエルワにおいて、文化協会との共催で、芸術祭、展覧会が
実施できている。

市民参画の推進では、文化協会との共催事業、生涯学習推進映画会・講演会等に
て市民参画ができています。市民の参加企画をなお一層期待する。

4-3「文化財の保存・活用（3事業）」すべてB評価である。

文化財保護体制や調査研究体制の整備は、丸山古墳発掘調査並びに調査報告書の
刊行をしている。文化財保護審議会も開催されており、未指定文化財の調査研究を
さらにお願ひしたい。

文化財の継承と活用は、文化を次世代に継承する重要な意義があり、地域と連携
して、人材育成や文化財の保護・保存について協議し、財政的支援をさらに期待す
る。

文化財の広報活動の充実は、発掘調査成果の展示やHP等を通じて実施している。
ガイドブック作成のための資料収集・整理をしており、更なる広報活動に寄与され
たい。

4-4「歴史館等の整備充実・有効利用（1事業）」B評価である。

整備充実は計画に基づき実施できている。企画展等さらなる有効活用を期待する。

(5) 青少年健全育成「生命の尊重と真摯に生きる力が育つ環境づくり」

5-1「青少年の健全育成の推進（4事業）」すべてB評価である。

関係機関との連携強化は、計画に基づき実施できている。

環境美化活動は、青少年の健全育成、非行防止等を図るため、市内のすべての小・
中学校で地域・学校の実情にあった取組ができています。

講演会の実施は、劇団民話芸術座による観劇等実施している。

地域ぐるみの健全育成運動の展開では、「少年の日」「家庭の日」の普及のため、
防犯弁論大会や親子ふれあい事業等を計画に従い実施している。

5-2「家庭の教育の向上（5事業）」すべてB評価である。

講演会の実施は、親子で和菓子作り教室等生涯学習講座や夏休み親子ふれあい木
工教室等を計画通り実施している。

正しい生活リズムの定着は、生活習慣についての実態調査を行い基本的な生活習慣
の確立指導を行った。また、生活チェックで自己改善や健康教育参観日をとおして、
保護者の意識を高めるなど家庭啓発を行っている。

情報提供の充実は、広報阿波、ケーブルTV、学校でのチラシ配布等行った。

文化やスポーツの拠点作りは、生涯学習講座をとおして実施している。

家庭教育の充実は、ブックスタート、図書館おはなし会を実施している。ボラン
ティアの更なる確保をお願いしたい。

5-3「青少年の体験・交流活動の充実（3事業）」すべてB評価である。

子ども体験学習活動は、親子ふれあい木工教室や夏休み体験学習を行っている。

青少年の居場所づくりの推進は、スポーツ少年団活動、勤労青少年ホーム利用等
の取組がある。

5-4「青少年団体、リーダーの育成（1事業）」B評価である。

スポーツ少年団指導者講習会で12人が資格取得している。(2-4再掲)

(6) 人権教育「他者を尊重する心が育つ、平和で豊かな社会づくり」

6-1「人権教育・啓発の推進(2事業)」B評価である。

指導者の養成では、全国・四国・県・市人権教育研究大会へ参加する等、資質向上を図っている。具体的なさらなる指導者の養成をお願いしたい。

人権啓発事業の実施では、人権啓発講座、人権フェスティバル、企業職員研修会等を行い1,331名が目標値に迫る参加人数となっている。

6-2「ぱあわーあっぷ事業(1事業)」B評価である。

教科学習、子ども会活動、阿波市人権フェスティバル等への参加、保護者会の開催し、指導員と児童・生徒の信頼を深めるとともに成果がみられる。

(7) 国際交流「国際感覚豊かな人が育つ環境づくり」

7-1「国際感覚豊かな人材の育成と国際交流活動(3事業)」すべてB評価である。

英会話教室の開催は、ALTによる講座(教室)を市内4箇所で開催している。さらなる進展を期待する。

外国との交流では、英会話教室、韓国語講座が実施されているが、料理講座等による食文化や生活文化交流が期待される。

3 おわりに

教育振興後期計画の全実施事業に対する評価結果について、可能限り所見を記述した。日ごろ、多大な時間・労力を費やし熱心に教育行政に取り組まれている教育委員会を始め関係者の皆様に感謝と敬意を表します。

2020(令和2)年度は、第1次教育振興計画・後期計画の最終年であり、教育ビジョン10年間「2011(平成23)年～2022(令和2)年」の最終年度となっている。2021(令和3)年以降には第2次教育振興計画の策定が予定されている。本報告書の評価結果を十分検討し、「あすに向かって 人の花咲く 安らぎ空間・阿波市」に実現に向け一層の取組をお願いしたい。

はじめに

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和元年度に教育委員会が実施した事業についての点検及び評価結果を議会に提出するとともに、市民に公表し、今後の教育行政のさらなる充実を図るためのものです。

そこで、新型コロナウイルスにより、社会全体の活動や生活様式の変革が求められている今、これまでの事業内容・方法の改善や新たな活動への取組につながることを期待して、学校現場での経験を生かすとともに、阿波市民としての立場から所見を述べさせていただきます。

1. 点検・評価について

阿波市第1次教育振興計画（後期計画）で策定した「5年間の主要事業」全73事業を対象事業として、それぞれに評価シートを作成し評価しています。PDCAのサイクルを使いわかりやすくまとめられています。また、私自身も学校現場で多くの事業を活用させていただき、阿波市の教育に対する手厚い支援と前向きな取組は、他郡市にはない素晴らしい姿勢だと思っています。

しかし、前年度の評価と本年度の評価を比べてみると総合評価で「A：優れた取組が多く、十分成果が上がっている。」が全部で8事業、その内「B」から「A」になった事業が5事業だけでした。残り65事業は全て「B：優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている。」でした。確かに成果は上がっていますが、さらなる取組によって「A：十分な成果」になる事業を増やしてほしいと思います。

また、事業の方向性についてもほとんどが「現状のまま継続する」、5事業が「さらに重点化する」、2事業が「見直しのうえ継続する」となっており、「Action：課題や今後の方針」についても多くの事業で前年度と同じ内容になっています。

本来この評価シートは、前年度の事業内容を点検整理し、次年度に向けてよりよいものへと改善していくための指針として活用するものだと思います。特に令和2年度以後については、事業そのものができるかどうかかわからないため、「見直しのうえ継続する」「事業の縮小を検討する」事業もあると思います。

そのためにも、さらに内容の検討をしていただき、計画的に次年度の事業が実施でき、充実したものとなりますよう、十分な検証を行ってほしいと思います。

2. 主要事業について

(1) 学校教育

学校教育関係全27事業において一定の成果を上げており、優れた取組が数多くあると思います。

「幼児教育」について、認定こども園への移行に向けた取り組みもスムーズに進んでいると感じます。今後、それぞれの園の特長を生かしながら、保護者のニーズや子どもの発育に応じた教育活動を推進してほしいと思います。

「確かな学力の育成」について、学力向上推進講師11名・英語指導講師5名を各小中学校に配置していることは、全国にも誇れる先進的な取組だと思います。英語指導講師については、平成18年度から配置していたため、小学校教育課程への外国語（英語）科・活動の導入、小・中・高の指導の連携において、学習指導要領が改訂（小学校令和2年度、中学校令和3年度）されても、スムーズに実践につなげることができています。また、学

力向上推進講師の配置についても、現在の社会状況を考えると、子どもたちへの細やかな対応を図るためには欠かすことができません。今後の継続となお一層の充実をお願いします。

「学校の施設設備」については、耐震工事・エレベーター設置・教室へのエアコンの設置・ICT 機器の充実等が毎年計画的に整備されてきました。そのおかげで、めまぐるしく変化する現在の社会環境や状況の中でも、阿波市内の学校は、慌てることなく安心して子どもたちの教育をすることができています。予算が伴いますが今後も教育の実践に必要な整備をお願いします。

「子どもへの教育環境づくり」については、生徒指導・特別支援教育・防災教育等様々な分野があります。その全てに共通しているのが、各関係機関との連携です。それぞれの事象に対するマニュアルを整理しておくとともに、相談・実践が素早く行える体制づくりの推進を図ってください。

「食育」については、毎年阿波市の農産物を利用した様々な取組がされており、子ども達や親の意識の中に、食への関心と地元野菜への興味が高まってきているように思えます。給食センターによる学校給食での食育の取組と、市学校食育推進会議を中心とした積極的な体験活動の実践により、阿波市全体に広がる食育の推進をお願いします。

(2) 生涯学習

生涯学習関連施設の整備充実・機能強化については、土成図書館も新設され、各地の公民館の新築・改築工事も計画的に行い、各地域において充実した施設の中で学習する条件は整っています。また、多岐にわたる講座も提供され多くの市民が参加できていることは、十分評価できると思います。ただ、講座によつての人数の偏りがあるように思えます。参加できる人数もあると思いますが、講座内容が本当に市民のニーズに合ったものなのか検証する必要があると思います。ホームページや広報によるアンケートを実施するなど、幅広く市民の意見を聞き、魅力ある講座の提供をお願いします。

図書館の運営については施設や蔵書数が充実しており、図書館利用者数や貸し出し点数、おはなし会など様々な取組においても十分評価できる内容です。今後は、図書館職員を各学校に派遣するなど、各学校との連携を強め、学校図書館の充実と学習環境の整備を図ってほしいと思います。

(3) スポーツ・芸術・文化振興

「スポーツのまち阿波市」をめざして、各種スポーツ事業の実施とスポーツ施設の整備を進めてきたおかげで、市民のスポーツへの関心の高まりを身近なものとして感じています。各種の大会において活躍している選手や団体も増えてきました。また、体力・運動能力の向上だけでなく、幅広い世代がそれぞれの目標を持ってスポーツを楽しむことで、心身の健康づくりにもつながっています。本年度は、内容を改善しないと実施が難しい事業もあると思いますが、今後も市民が楽しんで参加できる事業の継続をお願いします。

芸術・文化振興については、阿波市の史跡や文化財、歴史遺産に対する市民の意識を高めることが大切だと思います。そのためにも、市民が参加しやすく興味が湧く事業内容の工夫が必要だと思います。

(4) 青少年健全育成

青少年の健全育成については、合同の補導活動 47 回、防犯教室・不審者対応訓練 15 回、学校・青少年育成センター・警察の連携のもと開催されており、安全な環境づくりへの取組が十分できています。今後の継続をお願いします。

現在の課題は、家庭を取り巻く環境の変化による非行と引きこもりだと思います。改善するために、学校・地域・関係機関の協力体制の確立と地域で子どもや家庭を支援するネットワークづくりの整備を進めてください。

(5) 人権教育

様々な人権課題が存在する中、今も新たな人権問題が生じています。阿波市はこれまで、研究大会への参加や人権啓発講座・人権フェスティバル・人権問題講演会等市民を対象とした事業を毎年実施し、人権意識の高揚と指導者の育成に取り組み、成果を上げてきました。そのおかげで、市民の人権意識が高まり、資質も向上してきていると思います。しかし、今必要なのは「意識を行動に移すこと」だと思います。今後も、市民の人権意識の高揚を図る取組とともに、実践力のある人材の育成を目指してほしいと思います。

(6) 国際交流

幼稚園・認定こども園で英語活動を実施することにより、小学校の外国語活動への移行がスムーズにできています。それは、小さいときから英語に親しむことが興味や関心の高まりとなり、小学校からの外国語学習への意欲につながっているからです。

今後も、幼稚園から外国語の楽しさを伝え、幼・小・中学校での一貫性のある外国語教育を一層進め、市の目指す将来の国際理解教育への充実を図ってください。

おわりに

これまで7つの教育目標について意見を述べさせていただきました。この目標は、阿波市の人材育成のために考えられたものであり、毎年成果を積み上げてきた事業がほとんどです。また、全ての事業は、今後も継続していかなくてはならない内容ばかりだと思います。

しかし、現在のコロナウィルス感染状況下においては、事業によっては内容の精選や充実を図る必要があります。無くすのではなく、収束までの間事業を絞り込み、人員をかけて設備の充実を図り、安全対策をとったうえで実施する等の対策が大切だと考えます。

大きく変化する社会状況だからこそ積極的な点検・評価を行い、これまでの事業内容・方法の改善や新たな活動への取組を図ってほしいと思います。そして、阿波の人づくりプランの実現に向けた魅力ある事業の実施を期待しています。